

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：グループホーム柳緑の里

日時：令和 8 年 5 月 22 日(金)

場所：グループホーム柳緑の里(相談室)

書面参加者：斐川高齢者あんしん支援センター 1 名

出雲市高齢者福祉課 1 名

家族代表 欠席

クローバー薬局 欠席

施設ケアマネ 欠席

報告事項

・外国籍(ミャンマー)職員について

日本語でのコミュニケーションがうまく図れず、伝わっていないことが多い。また、自分より上の立場の方に「わかりません」ということができない(失礼)という考え方。これにより、分からないことも「はい、わかりました」となる様子。事故が起きないように分からないことはその場で確認するように伝えるが大きく変わらない。

指導者が専門用語、ケアの手順等をミャンマー語へ翻訳、書面で確認している。現在一人でケアを任せることができるまでには至らない。引き続き指導を行う。

・ヒヤリハット報告書(内服薬が落ちていた)

口腔内へ介助または本人が入れるまで見守っているが、その後口より出した(落ちた)…飲み込みまで確認を行うこととする。

・ヒヤリハット報告書(センサーが OFF になっていた)

訪室時に気づき、転倒はなし…居室入り口目につきやすい所へ注意書きを貼る。

・新規入居者の不穏

2 名の新規入居者が 2 日目頃より不穏状態(強い帰宅願望)となる。家族に付き添い依頼、主治医への相談、内服調整を行い、現在落ち着いて過ごせるようになっている。

Q：環境の変化による不穏状態は男性、女性で違いがあるのか？

A：男女での違いはなく、人により(認知症の程度等)異なると考えます。何事もなく環境に慣れ、落ち着いて過ごされる方も多くおられます。不穏時は制止するのではなく、付き添い共に行動し、訴えをしつかりと受け止めるよう努めています。

・3 月に転倒骨折(救急搬送)

外国籍(フィリピン)の職員が夜勤で対応。連絡を受け施設へ到着後に消防署へ救急要請。夜勤者は 2 名だったが、コロナ対応中であり行き来を制限していた。救急隊到着後、状態報告がスムーズに行えず。今後の課題となる。救急要請については消防署の判断で通訳を入れることが可能とのこと。

・特養申し込みについて

入居時に家族へ説明している。要介護 3 以上であれば入居と並行して申し込みを依頼。要介護 2 以下であれば入居後、要介護 3 以上になった際申し込みを依頼する旨を説明している。

次回開催予定

令和 8 年 7 月 24 日(金) 15:00～16:00

以上